

巻頭言 一歩進んだ連携と協力に向けて	1
平成 26 年度神奈川県図書館協会総会報告	2
表彰受賞者	3
事業計画・予算・研修計画	4
役員名簿・委員会名簿	5
『神奈川県皇国地誌残稿所在目録』について	5
便利になりました！神図協ホームページ	6



一歩進んだ 連携と協力に向けて

神奈川県図書館協会長
神奈川県立図書館長
神奈川県立川崎図書館長

高 嶋 薫

この 4 月から神奈川県図書館協会会長に就任しました神奈川県立図書館と川崎図書館館長の高嶋です。どうぞよろしくお願いいたします。

神奈川県図書館協会は、80 有余年という長い歴史の中で、公共図書館、大学・短大図書館そして専門図書館と、県内の多くの図書館が館種を超えて連携、協力し、活動の実績を積み上げてまいりました。図書館が抱える様々な課題に取り組んでいく上で、こうしたバックボーン存在は、本当に心強いと感じます。

さて、図書館を取り巻く環境は大きく変化し、対応が迫られています。その大きな一つが、図書館における電子化への対応でしょう。

図書館における電子化は、インターネットの普及による情報提供サービスの機能拡充の段階を経て、今や電子媒体として作成された資料の収集・保存・提供と、図書館が既に所蔵する資料の電子化の段階に入っています。

県立図書館でも、県の行政機関や試験研究機関が発行する刊行物や学術情報などを収集してきましたが、近年、こうした機関による情報提

供の手段が、これまでの紙媒体からインターネット上での提供に急速に切り替えが進んでいます。こうした現状を背景に、県立図書館としても機関リポジトリを利用し、電子化された行政資料等を収集、提供する方向で検討を始めています。機関リポジトリは大学図書館では先進的に取り組まれていることから、当協会に加盟する大学図書館からもご教示をいただいています。

このほか、より広がりをもったデジタルアーカイブへの取組を進めるほか、電子書籍の貸出サービスのあり方についても考えていく必要があると思っています。

こうした、図書館における電子化への対応は、館種を問うことなく、これからは益々大きな課題となってくると考えられます。

館種を超えて連携、協力し、これまで様々な課題に挑戦し続けてきた神奈川県図書館協会が、こうした共通する課題への取組に向けて、知恵を出し合い、共に研究・検討する場をもつことはできないものか、そのようなことが頭に浮かびます。皆様は、どう思われるでしょうか。

平成 26 年度 神奈川県図書館協会総会開催報告

平成 26 年度神奈川県図書館協会総会が、4 月 23 日（水）に神奈川県立青少年センター 2 階多目的プラザにおいて開催されました。

高嶋薫会長（県立図書館並びに県立川崎図書館館長）から「図書館を取り巻く課題は年々増加している。当協会は、公共図書館・大学図書館・専門図書館といった様々な館種の図書館から構成されているが、共通した課題もあるだろう。資料の電子化、資料費の削減など図書館が直面している状況は厳しいものがあるが、館種を超えた連携により、さらなるサービスの充実をはかっていきたい。今後とも当協会への皆様のお力添えをお願いしたい。」との挨拶がありました。

続いて、平成 25 年度事業実施結果及び決算について、平成 26 年度事業計画（案）及び予算（案）について審議が行われました。審議事項については、原案通り承認されました。

また、会員の退会および入会について、個人会員 1 名の退会と、個人会員 1 名の新規入会が報告されました。他に、「神奈川県緊急財政対策に基づく県立の図書館機能の見直し案に対する要望書」について報告がありました。

表彰式では、永年勤続職員 19 名、図書館活動に功績のあった功労者 4 団体の表彰がありました。

高嶋会長から「今回表彰された皆様には、これまでの多年にわたる活動に感謝申しあげる。功労者の方々は、図書館の活動を地域から支え、子どもたちの読書活動の推進に寄与してくださっている。これからも図書館のよきパートナーとして、ご活躍願いたい。永年勤続表彰を受賞した方々は、図書館員としての喜びも苦労も幾度となく経験してきたことだと察する。図書館を取り巻く状況が大きく変化する中、図書館と利用者を結びつけることにおいて職員が果たすべき役割は大きい。図書館のプロフェッショナルとして、これからもご尽力をいただきたい。」と祝辞が述べられました。



講演会は、伊那市立伊那図書館長の平賀研也氏をお呼びし、「情報基盤社会における知のエンパワーメントは地域から～伊那谷の“屋根のない博物館”の“屋根のある広場”から～」と題してお話ししていただきました。



【概要】

まず、講師の“伊那”の紹介からはじまり、ご自分の経歴や伊那との出会いを語られた。

つぎに、講師は、「10 年後、あなたのまちに“図書館”はありますか？」との質問を参加者に投げかけた。

（以下、講師の話）図書館は 30～40 年スパンで社会の変化とともに盛衰を繰り返しながら変化してきた。そのときどきの図書館は、地域情報のハブとしての役割を追求してきたが、昨今の図書館を取り巻く IT 革命をはじめとする環境の変化は図書館にそのあり方の変革を求めている。情報基盤社会の今、情報の姿が変わり、「なぜ知るか」、「いかに知るか」が問われている。

伊那図書館は、あくまで地域に学ぶことにこだわり、「伊那谷の“屋根のない博物館”の“屋根のある広場”」「情報と情報、情報と人、人と人をつなぎなおす」のキャッチフレーズを自らに課している。地域の自然と暮らしに学び、地域情報のハブあるいはポータル（入り口）になることは、本だけでなく、地域のヒト・モノ・コトに関わるレフェラルサービスを可能にするデジタル情報が必要となる。誰もが気楽に使える「知の共有地」デジタルコモンズを整え、アクセスでき、自由に編集し、新たなコンテンツを創造できるようにすることを目指している。

情報基盤社会における知のエンパワーメントは、実感する知の獲得できる「場」が地域にあり、それが強みである。参加型の、共に知る・創る「場」をデザインし、提供することである。それが新たな地域知の創造へとつながる。

講師が伊那図書館において取組んだ事業は、図書館というハコや仕組みの枠を超え、新鮮な提案

とその推進により新しい公共空間としての地域図書館の可能性を拓いていると評価された。

「高遠ぶらり」プロジェクトについて。「高遠ぶらり」は、携帯端末用アプリケーションで、古地図や絵図の上に GPS（全地球測位システム）で現在地を表示している。昔の街を歩いていると錯覚したり、今の地図と切り替えて見ることもできる。絵巻物で、家の軒先にサカバヤシ（杉玉の原形）を発見しその家が酒屋と判明した例もあり、いろいろ楽しめる要素に溢れている。

掲載地図を増やすため、年に数回「街歩きワークショップ」という参加型講演会を開催している。ボランティアガイド、学生をはじめとして年齢も職種も興味もさまざまな人が、参加している。この街歩きで、昔の道のカギノテ（杵形）がわかる暗渠（水路）と出くわした。参加者が街歩きをしながら、共に知るプロセスは、気づきと楽しさにあふれている。

また「高遠ぶらり」コンテンツを利用し、観光客や携帯情報端末を持たない人にも同様に楽しめるウォークラリー「高遠ぶらり」を実施している。小学校の先生が学習向けプログラムとして地域学習に取り入れたり、近隣市町村の様々な団体にも注目され、協働の申し入れもある。人と人をつなぎ直すことで「伊那谷のデジタルコモンズ」へ向けた展開があった。地域における情報の蓄積・提供の担い手は図書館だけではない。

地域の自然や暮らしに学ぶと、理屈ではなく、面白いことが起こる。現場で何が出来るのか考えている。百館百様なりのワクワクするような図書館へ。新しいものを共創していくようなことが楽しいと思う。やっている本人が楽しめないのに、お客さんが楽しめる訳がないのだから。まずは図書館の職員が楽しむこと。（以上、講師の話）

最後に大塚企画サービス部長より「大変興味深いお話でした。職場に帰って平賀氏の話を考えてみる要素がたくさんあると感じた。」との講師へ謝辞が述べられた。

平成 26 年度 表彰受賞者

★永年勤続職員 19 名

小林利幸（県立）、嵯峨淳、齋藤有希（横浜市中央）、迫田瑞枝（横浜市保土ヶ谷）、岡野正志（川崎市中原）、今井新一朗（川崎市立幸）、原田里美（川崎市立多摩）、稲垣美幸（横須賀市立南）、土屋直美（平塚市中央）、柏木隆（厚木市立中央）、篠田賢治（座間市立）、八巻千波（鶴見大学）、佐藤博章（東海大学）、原真由美（横浜女子短期大学）、渡辺恵理、浅野千保、渡邊明子、大塚麻優子（神奈川近代文学館）、金井恵美子（神奈川県ライトセンター）

★功労者 4 団体 （ ）内は推薦施設名

○グループ ひよこ（川崎市立宮前図書館）

1986 年に発足以来、川崎市立宮前図書館において定例のおはなし会、夏冬の特別おはなし会を行い、図書館での読書活動普及に貢献している。図書館以外では保育園、小学校、保健福祉センター等でのおはなし会、依頼による川崎市内各地でのおはなし会を行い、積極的に地域の読書活動を展開している。

また、ボランティア自主講座等も企画し、技術の向上、活動の充実を図っている。

○おはなしたまてばこ（川崎市立麻生図書館）

1986 年開催の「本と子どもの出会い講座」受講者が中心となり、翌年発足した。川崎市立麻生図書館において、幼児や小学生を対象にした毎週水曜日のおはなしひろば（お話会）、大人向けには年 1 回「大人の方楽しんでいただくお話の会」を開催している。また、麻生区内の小学校で出前形式のお話会を実施し、2012 年度は 13 校、207 クラスに及んだ。

お話会を通して、多くの人々、特に地域の子供たちに本の魅力を伝える活動を行い、図書館を利用するきっかけづくりとなる役割を果たしている。

○でいらぼっちの会（相模原市立図書館）

1985 年、相模原市立図書館主催の読書普及講座の受講生により発足した。自主的な勉強会を重ね、図書館事業の 4 ～ 6 歳児や小学生を対象とした「おはなし会」にストーリーテリングの実演者として長年にわたり協力している。多く子どもたちにおはなしの世界をひろげ、その素晴らしさを伝え、さらに高度な技術を必要とするストーリーテリングの上達を目指すとともに、ボランティアの育成にも尽力している。

○おはなしバスケット（相模原市立図書館）

1980 年、地域子どもたちに本とおはなしの楽しみの輪を広げようという目的で、開館間もない相模原市立図書館相武台分館において地域の主婦らを中心に結成された。30 年余の長きにわたり、分館主催の月例おはなし会の運営を担うなど、児童サービス事業の拡充、発展に寄与し、多くの子どもたちや保護者にお話の楽しさ、本を読むことの素晴らしさを伝えてきた。

また、2005 年から開催の相模原市立 4 図書館合同事業「キッズフェスタ」にも毎年積極的に参加協力するなど、図書館事業に対し多くの貢献をしている。



平成 26 年度 事業計画

- 1 図書館に関する調査研究：
 - (1) 郷土資料等の調査研究・編集
 - (2) 大学図書館の調査研究・編集
- 2 図書館活動の普及：
 - 図書館活動について PR を行う。
 - 協会ホームページのメンテナンス作業を実施し、機能の活用を図る。
- 3 読書推進運動：
 - 「子ども読書活動推進フォーラム」を県立図書館と共催する。
- 4 図書館職員の研修：
 - 館員の資質の向上をはかるため、次の研修を充実させる。
 - (1) 一般研修（事業の企画・運営等）
 - (2) 児童サービス研修（子ども読書推進フォーラム（県立図書館との共催）等）
 - (3) 視聴覚関係研修
 - (4) 見学研修（国立国会図書館等）
 - (5) その他
- 5 機関紙、その他の印刷物の刊行：
 - 「神奈川県図書館協会報」第 247 号～第 250 号を発行する。
 - 「神奈川の図書館 2014」を発行する。
- 6 図書館相互の連絡協調：
 - 神奈川県図書館協会の運営その他に関して次の会議を行う。
 - (1) 総会
 - (2) 理事会
 - (3) その他
 - 永年勤続職員及び県内図書館の功労者に対して表彰を行う。
 - 公開ホームページを利用した加盟館相互の情報共有を図る。

平成 26 年度 予算

<一般会計>

収入		(円)
分担金等収入	各館分担金	1,461,000
	会費（個人会員）	45,000
補助金	日図協助成費	118,775
繰越金	前年度繰越金	1,169,097
雑収入	雑収入	75,200
合計		2,869,072

支出		(円)
事務費	事務局費	179,000
事業費		
会議費		51,000
調査研究費	調査研究費	132,400
	館員等研修費	506,000
広報活動費	会報等発行費	573,000
	図書館総合展経費	181,000
表彰費	表彰費	147,000
予備費		1,099,672
合計		2,869,072

<出版特別会計>

収入		(円)
前年度積立金	800,561	
販売収入	10,700	
雑収入	70	
合計		811,331
支出		(円)
「神奈川県皇国地誌残稿所在目録」刊行費	0	
郷土資料集成積立金	811,331	
合計		811,331

平成 26 年度 研修委員会 研修計画（6 月 10 日現在）

	開催日	研修内容
施設見学	5 月 29 日（木）	国立国会図書館
	7 月 15 日（火）	東京こども図書館
	11 月	大学図書館
講演	9 月下旬	高齢者サービス
	10 月	就活支援～大学図書館と公共図書館の連携～
	1 月～2 月	窓口対応・接客
児童	12 月 6 日（土）	県の子ども読書活動推進フォーラム
	1 月～2 月	児童サービス
視聴覚	未定	視聴覚資料と著作権
総合展	11 月上旬	会場：パシフィコ横浜 講師・テーマ：神奈川県立図書館の未来を考える（仮題） *総合展の開催期間（11/5～11/7）に行います。

平成 26 年度 役員名簿(平成 26 年 4 月 1 日)

会 長	高嶋薫（県立 県立川崎）	
副 会 長	山口隆史（横浜市中心）	
	松本安生（神奈川大学）	
理 事	山本長史（県立）	佐々木敏隆（県立川崎）
	坪内一（横浜市中心）	田辺浩嗣（川崎市立中原）
	岡崎扶佐子（相模原市立相模大野）	小貫朗子（横須賀市立中央）
	栗原かほる（藤沢市総合市民）	古矢智子（小田原市立）
	小川俊彦（逗子市立）	市川秀夫（厚木市立中央）
	佐川和裕（大磯町立）	白石小百合（横浜国立大学）
	水沼淑子（関東学院大学）	樋川直司（相模女子大学附属）
	二藤彰（鶴見大学付属）	杵澤宣賢（東海大学付属）
	工藤孝志（神奈川県ライトセンター）	
幹 事	佐藤正昭（横浜市社会福祉協議会福祉保健研修交流センターウィリング横浜）	
	澤茂樹（神奈川近代文学館）	
事務局長	大塚敏高（県立）	

平成 26 年度 委員会名簿（◎は委員長）

※次の委員が交代しました

- <企 画 委 員 会> （大磯町立） 佐藤聡 → 早崎薫
（相模女子大学） 高橋英子 → 小田切良友 → 澤藤桂（6月～）
（神奈川県ライトセンター） 田中文雄 → 平井利依子
- <広 報 委 員 会> （県立） 白石智彦 → 秋山美幸
（県立公文書館） 松本智香子 → 八巻恵美
- <郷土・出版委員会>◎（大磯町立） 佐藤聡 → 早崎薫
- <研 修 委 員 会> （厚木市立） 宮原淳子 → 萩原郁美
（南足柄市立） 日比野友哉 → 小山哲男
（関東学院大学） 田中典子 → 金本孝子
（神奈川県ライトセンター） 金井恵美子 → 堀川菜穂美
- <大学図書館委員会>◎（相模女子大学） 高橋英子 → 小田切良友 → 澤藤桂（6月～）

『神奈川県皇国地誌残稿所在目録』について

郷土・出版委員会

神奈川県図書館協会が今年3月に刊行した『神奈川県皇国地誌残稿所在目録』（以下、『所在目録』という）のPRをさせて頂きたいと思います。

皆さんもご存じのとおり、「皇国地誌」は明治初年、全国の統一的な地誌の編纂を企図して政府が各府県に提出させた郡誌・村誌の総称で「郡村誌」とも呼ばれているものです。

しかし、この「皇国地誌」事業は実現せず、各府県から提出された6400冊にのぼる正本は関東大震災によって殆どが消失してしまいました。

また、神奈川県においては、県庁保管分の副本も大震災で焼失し、郡役所保管分は役所の廃止とともにその多くが散逸してしまいました。

このような状況の中、当協会の郷土資料編集委員会では、県下に残存する関係資料の調査を行い、昭和38・39年刊行の『神奈川県皇国地誌残稿』上下2巻を以て、県下10郡147か村の貴重な地誌を翻刻しました。

さらに、東京大学総合図書館の貴重書の中から明治政府に提出された正本の内、鎌倉郡村誌4冊が確

認されたことを受け、平成3年に鎌倉郡89か村を網羅する『神奈川県皇国地誌相模国鎌倉郡村誌』を翻刻出版しました。

郷土・出版委員会では、上記図書に続く新たな翻刻材料を県内各自治体史編纂の成果に求め、平成17年度に「皇国地誌所在把握状況」調査を実施しましたが、諸般の事情で翻刻作業は叶いませんでした。

そこで、当該調査の結果を活かすため平成24年度に再調査を行い、『所在目録』として刊行するこ

とにしました。

『所在目録』は利用者・研究者の利便性を考慮し、第1章「県内自治体へのアンケートによる皇国地誌残稿所在目録」のほかに、第2章として「皇国地誌残稿掲載の刊行物一覧」と巻末に村名の「索引」を併せて掲載しました。

明治初期の神奈川を知りたいという多くの利用者・研究者に活用して頂けるよう、協会員の皆様には本書のご案内をよろしくお願い致します。

(鎌倉市中央図書館 中田孝信)

便利になりました！神図協のホームページ

広報委員会

神図協のホームページは2012年7月にリニューアルして以来、グループウェア機能を利用して会員専用ページを作成するなど、便利な機能を追加してきました。

加盟館には全館共通の閲覧用IDと各加盟館個別のIDが配布されています。『神奈川の図書館』などのデータ閲覧用とデータのやり取り用と、用途別に分けてご利用いただけるようになっています

(IDやパスワードについてご不明な点がございましたら事務局へお問い合わせください)。ここで現在利用できる機能をまとめてみたいと思います。

○会員専用ページ

IDとパスワードを利用してログインすると、「新着情報」に「会員専用ページ」の新着情報も追加されます。また、左側メニューの下方、「グループスペース会員専用ページ」からもご覧いただけます。

「掲示板」に投稿すると、加盟館各館にメールで通知が行きます。事務局からのお知らせなどはここからお伝えしていますが、加盟各館にお知らせしたいこともここから投稿していただくことができます。

「キャビネット」からは『神奈川の図書館』作成のためのファイル等のダウンロードができるようになっています。(但し、ファイルのアップロードはできません。)

また「協会報」と同時に会員限定で発行している「図書館だより」もアップされています。2013年11月からは『神奈川の図書館』の会員向けエクセルファイル等もご利用いただけるようになりました。(2010年版以降)

「各委員会共通ページ」内のキャビネットにアッ

プされている「神図協ネットコモンズの使い方(一般用)」にもホームページの利用法がありますのでご覧ください。

○一般向けページ

神図協についてや加盟館一覧のほか、研修活動委員会からの研修のお知らせや研修報告を公開しています。また「協会報」は240号からアップされています。

これに加えて『神奈川の図書館』のPDF版も2014年1月から公開を開始しました。メニューの「統計『神奈川の図書館』」からアクセスすることができます。

まだまだ発展途上のホームページですが、会員の皆様の意見をいただいて、さらに便利にしていきたいです。

(神奈川県立川崎図書館 沖田香織)

The screenshot shows the Kanagawa Library Association website. The top header includes the logo and name. The main content area is titled '会員のページ' (Member Page). It contains a list of documents for upload, including '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)'. The bottom section is titled 'キャビネット' (Cabinet) and shows a list of files for upload, including '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)', '平成25年度 調査会の記録(9件)'.